

林業を核とした地域振興に
取り組んでいます

総土地面積の90%以上を森林が占める南会津町。昭和30年代には、優良広葉樹材の供給地としての地位を確立し、基幹産業の「林業」が最盛期を迎えていました。

その後、優良広葉樹の減少や、安価な外国産材の流入などにより、林産業は低迷していますが、近年では、戦後に植栽した樹木が成長し、ようやく木材として利用できる段階に至ります。

これらの経過を踏まえ、町では、林業を核とし、地域振興に向けた取り組みを開始。平成29年度には、林野庁による補助事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」の「モデル地域」に選定されました。

林業成長産業化

地域創出モデル事業とは

当モデル事業では、戦後に植栽した樹木が木材としての利用時期を迎える中、町産材の利用を高めることで、木の伐採から加工・販売に至る事業者が連携し、地元へ

た丸太（町産材）によって地域経済を循環させること。町産材が町内で加工され、有効に利用されなければなりません。

町内利用および消費を拡大するため、公共施設での利用や、住宅の新築・増改築で町産材を利用するための経費を支援しています。

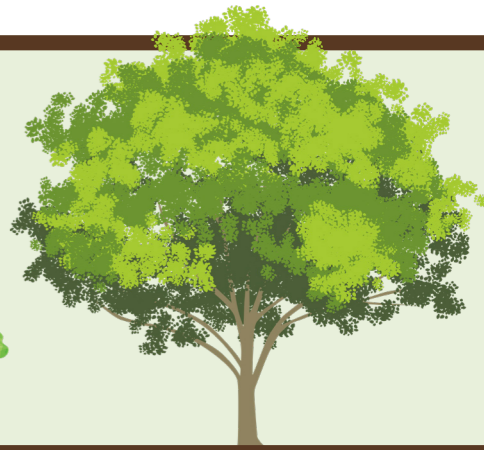
一方で、町産材の一部は、木質バイオマス用の燃料チップへの加工が進められています。生物由来の有機性資源である木質バイオマスは、太陽光や風力と並び、再生可能エネルギー源として注目されており、今後の展望を踏まえ、燃料チップ製造施設の機能を強化する町内事業者もあります。



写真① 町産材を使用した住宅（内観）

林業成長産業化 地域創出モデル事業

取り組み状況をご紹介します



カラマツ（針葉樹）



ナラ（広葉樹）



ブナ（広葉樹）

の利益還元や地域活性化に結びつける取り組みを支援しています。



写真④ 町産材の利用価値を高めるための研修を開催

林業の出発点となる

「丸太」の生産量を増加

町では、最初のステップとして、南会津森林組合に対する「林業機械」の導入を支援しました。作業道の敷設をはじめ、立木の伐倒作業や玉切り・枝打ち作業を機械で行うことで、作業および生産効率は大幅に上昇。丸太の生産量増加につながります。

また、国では、地域の林業経営の重要な担い手である森林組合の体制強化をはじめ、木材販売の強化、組合員への利益還元などを推進するため、「森林組合法」を改

写真⑤ 森林組合に導入した林業機械



正しました。

経営管理が行われていない森林では、町が仲介役として森林所有者と担い手をつなぐ「森林経営管理制度」も平成31年度から運用されており、国のさまざまな施策とモデル事業を掛け合わせ、丸太の生産体制を強化しています。

町産材の利用を促し

地域経済を刺激

林業による地域振興を進める上で大切なことは、町内で生産され



写真⑥ 町産材をふんだんに利用した「ウッド・ウォール・アート」が設置されたホテルのダイニングスペース（静岡県熱海市）

【問合せ】

林業成長産業化推進室
電話 0241-62-6220

町産材の価値を高め

「木の町」を確立

町内利用を促進したとしても、町産材のすべてを町内で消費することはできません。町産材の付加価値を高め、いかにして町外に販売していくか。知恵を出し合い、「木の町」としての存在を強く打ち出す必要があります。

「ウッド・ウォール・アート」というプロジェクトをご存じですか。町と事業者が連携し、インテリア用の商品を開発する新たな試みです。



町では、上記プロジェクトをはじめ、町産材を核としたビジネスの可能性を広げるため、事業者が連携する拠点を令和3年度に整備します。

広報紙面を通じ、拠点施設の概要や整備状況などを適時ご紹介します。